

JICA筑波「アジア地域 水災害被害の軽減に向けた対策」コース

JICA Tsukuba training course "water related disaster management in Asian region"

本邦研修期間 2012年8月19日－9月15日

研修員	8カ国10名 バングラデシュ(2)、ベトナム(1)、インドネシア(1)、タイ(2)、マレーシア(1)、 フィリピン(1)、スリランカ(1)、ミャンマー(1) ※()内は研修員数	
研修の目標	上位目標	参加国において研修成果が活用された水災害被害の軽減に資する政策や計画が策定される。
	案件目標	日本の治水・防災に関する技術や取り組みを学ぶことにより、参加者の水災害被害軽減に向けた政策・計画の作成能力が向上する。
	単元目標	(1)東日本大震災をはじめとする近年の自然災害発生状況や災害予防・緊急対応・復興までの過程を理解し、日本の水文知識や水文データに基づく災害予防の重要性を学ぶ。 (2)水災害防災に必要な基礎知識として、治水事業の概要や治水計画の理念を理解し、説明できる。 (3)日本における水文関連技術を演習を通じて習得する。 (4)上記3項目で得た知見を基に、自国の水災害対策における問題解決へ向けたアクションプランを作成する。

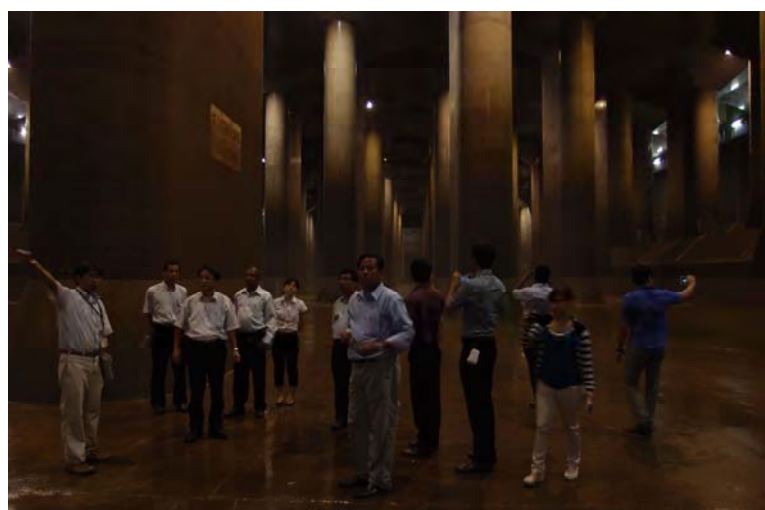
1. 研修概要

2012年8月19日から4週間、JICA筑波 課題別研修「アジア地域 水災害被害の軽減に向けた対策」コースにおける本邦研修が行われ、一般社団法人国際建設技術協会としてその実施支援を行いました。本研修は、特に水災害の多いアジア地域において、水災害被害の抑止・軽減及び災害からの復旧・復興を図るための総合的な能力を有する人材の育成を行う事を目的としています。研修員には8カ国の政府機関の河川管理・水資源管理等の関連部局の技術者10名が参加しました。

2. 研修の構成

研修の構成は、自然災害発生状況や災害予防・緊急対応・復興までの過程、水文データに基づく災害予防の重要性、治水事業の概要や治水計画の理念等を学ぶための講義と現地視察、氾濫解析ソフトウェア演習から構成されています。

講義では、国土交通省の協力を得て、治水計画と住民参加、ダム事業と制度、水防活動、都市型水害対策、水資源管理など実践的かつ具体的な知識、経験が研修員に伝えられました。さらに現地視察では、関東地方整備局や荒川上流河川事務所等を訪問し、河川の維持管理・災害対応について学ぶとともに、スーパー堤防や首



首都圏外郭放水路の視察

都圏外郭放水路等の先進的な治水施設の見学を行いました。そして、研修旅行として東日本大震災の被災地及び海岸堤防の復旧工事現場を訪問して震災時の対応、復旧・復興の技術について学びました。

3. 研修のアウトプット

研修員は日本で学んだ内容を踏まえ、自国の水関連災害に関する課題に対して、自らが実行する内容を「アクションプラン」として発表しました。今回の研修で作成されたアクションプランは、それぞれの国の事情・課題を反映したものとなっていますが、ハザードマップの地域住民への配布、自国の防災に関する情報のポータルサイトの立ち上げといった住民コミュニケーションに関する内容が多く見られました。

今後、研修員が今回の研修コースで学んだ事を踏まえて作成したアクションプランに基づき、それぞれの国で水災害軽減に向けた取り組みが行われることが期待されます。



閉講式での集合写真

【文責：研究第二部 渡辺 肇】